

秋田県三種町下岩川地区(地域管理構想) の概要

令和7年10月17日

国土交通省国土政策局総合計画課
国土管理企画室

国土の管理構想

地域の現状と将来を見据え、土地管理のあり方を考えます

背景

人口減少・高齢化

全ての土地をこれまでと同様に
労力や費用を投下・管理することは困難

管理されない土地が増加
生活環境や景観等が悪化

地域が荒廃するおそれ

優先的に維持したい土地を明確化、
管理方法の転換等を進めることが重要

「国土の管理構想」の概要

人口減少下の適切な国土管理の
在り方を示したもの

国・都道府県・市町村・地域における
国土管理の指針

都道府県・市町村・地域（集落等）で、

- ・人口・土地の管理状況等の現状把握・将来予測
- ・目指すべき将来像と土地の管理の在り方

を示す **管理構想を策定**

市町村・地域は **地図上に見える化**
(**管理構想図**)

関係部局、地域の合意形成に基づき、
優先的に維持、粗放的な管理、最小限の管理
を行う土地の範囲を決め、管理方法の転換

■ 対象地域:

秋田県三種町下岩川地区
(地区内にモデルエリアを設定)

■ 地区概要:

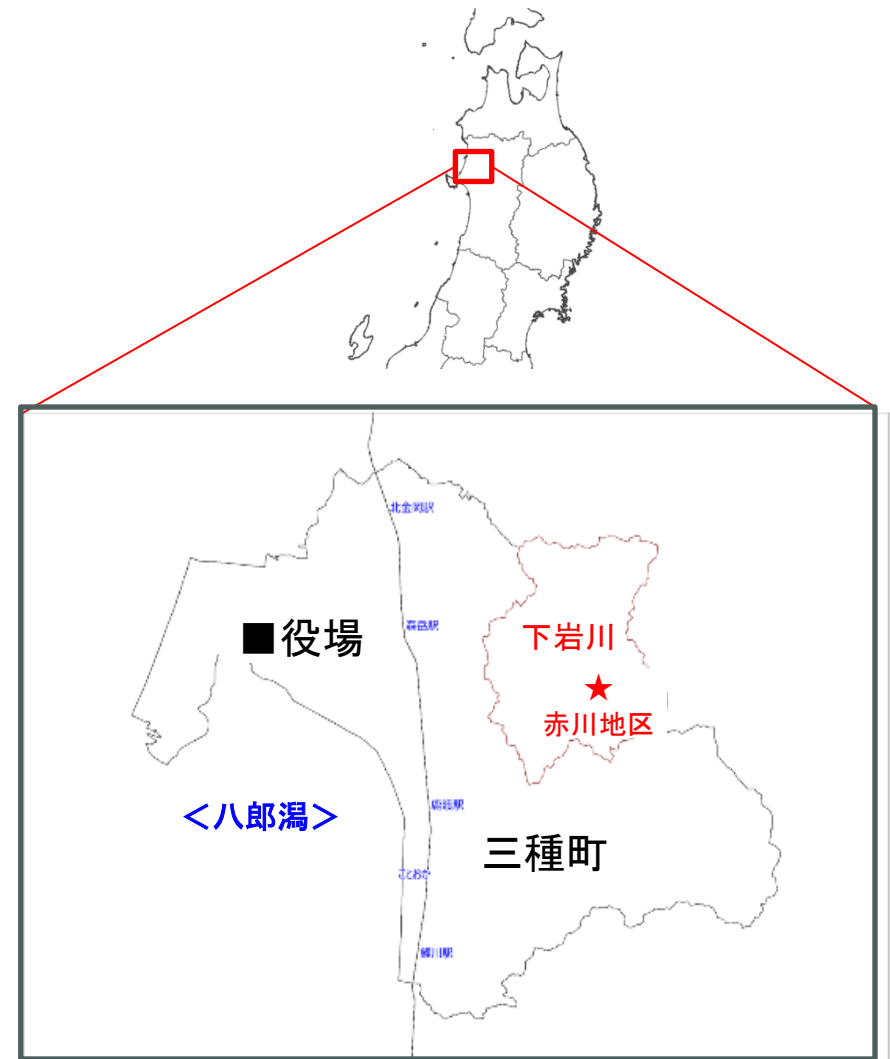
人口960人、高齢化率49.3%
(2022年、住民基本台帳)

- ・大区画農地と小区画農地が併存
- ・周囲の森林は財産区が管理する共有林

→高齢化や災害防止等を踏まえ、これらの将来に渡る管理手法について検討が必要

■ 検討体制

下岩川地域づくり協議会等の地元組織
三種町
持続可能な地域社会総合研究所
秋田県立大学



位置図

取組の概要

R4年度:

デジタルマップ基礎情報を整備(農地、用水路、森林等)

R5.8~12月:

住民の意識向上、体制進化に向けたワークショップ

R5.10月~:

中心部の赤川地区において、
農地の詳細情報(管理者年齢や後継者、水利状況)の
デジタルマップ作成

R6.8月:

現地研究会を開催

今後の重点地区として、赤川集落の一部、宮の目集落、
中野集落、小町集落を**モデルエリア**と設定

R6.10月~R7.2月:

モデルエリアで現地踏査、農地・水利施設の管理レベル
検討、現地研究会で地域管理構想案検討

R7.3月:

下岩川地域づくり協議会総会で地域管理構想承認



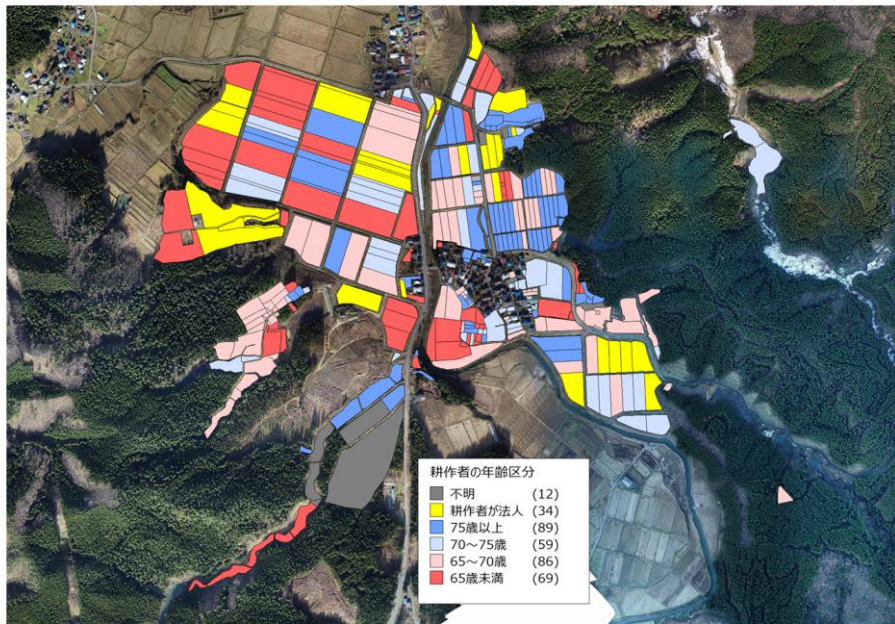
レゴワークショップ(R5年8月21日)



管理レベル検討作業(R7年1月21日)

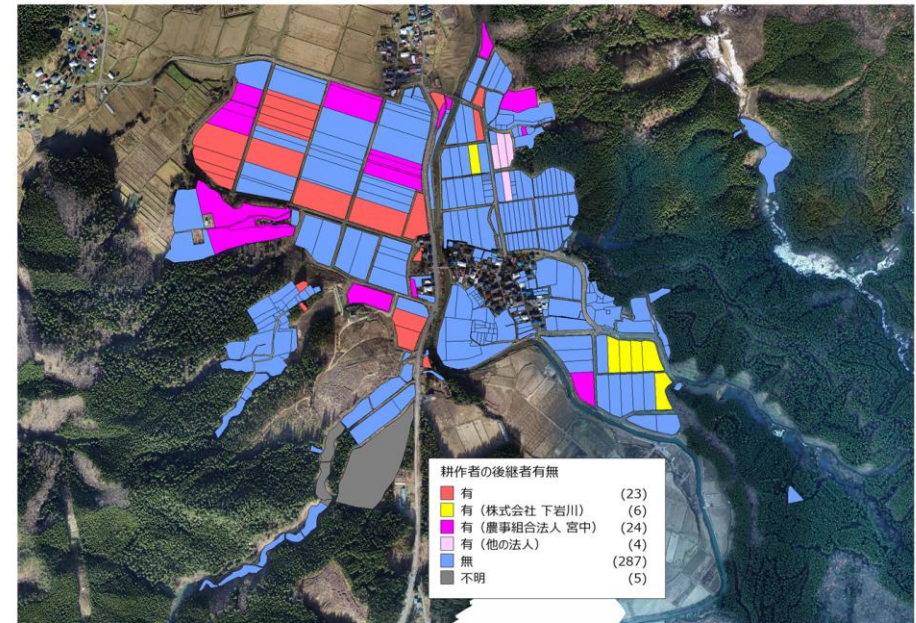
- モデルエリア**（赤川集落の一部、宮の目集落、中野集落、小町集落）において、現在の耕作者年齢と後継者の状況を色分け地図を作成
- ため池等の水利施設の状況も加味し、農地一筆ごとの営農継続の可能性、困難性について検討

<モデルエリア(小町集落)の検討成果>



現在の耕作者年齢地図(小町集落)

全349筆のうち**42.4%**が**70代以上の耕作者**
農業の**平均引退年齢が76.7歳**

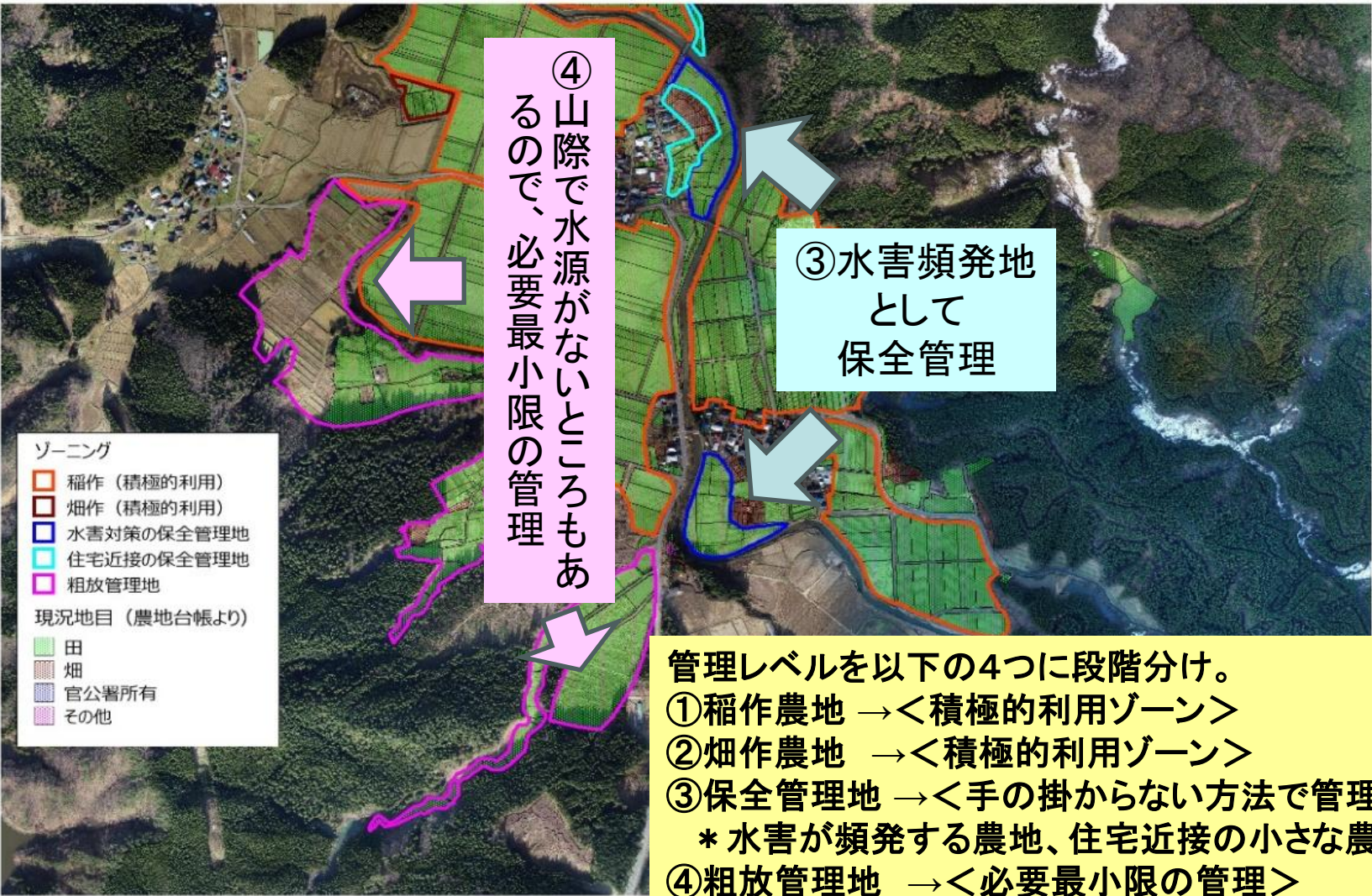


耕作者の後継者状況地図(小町集落)

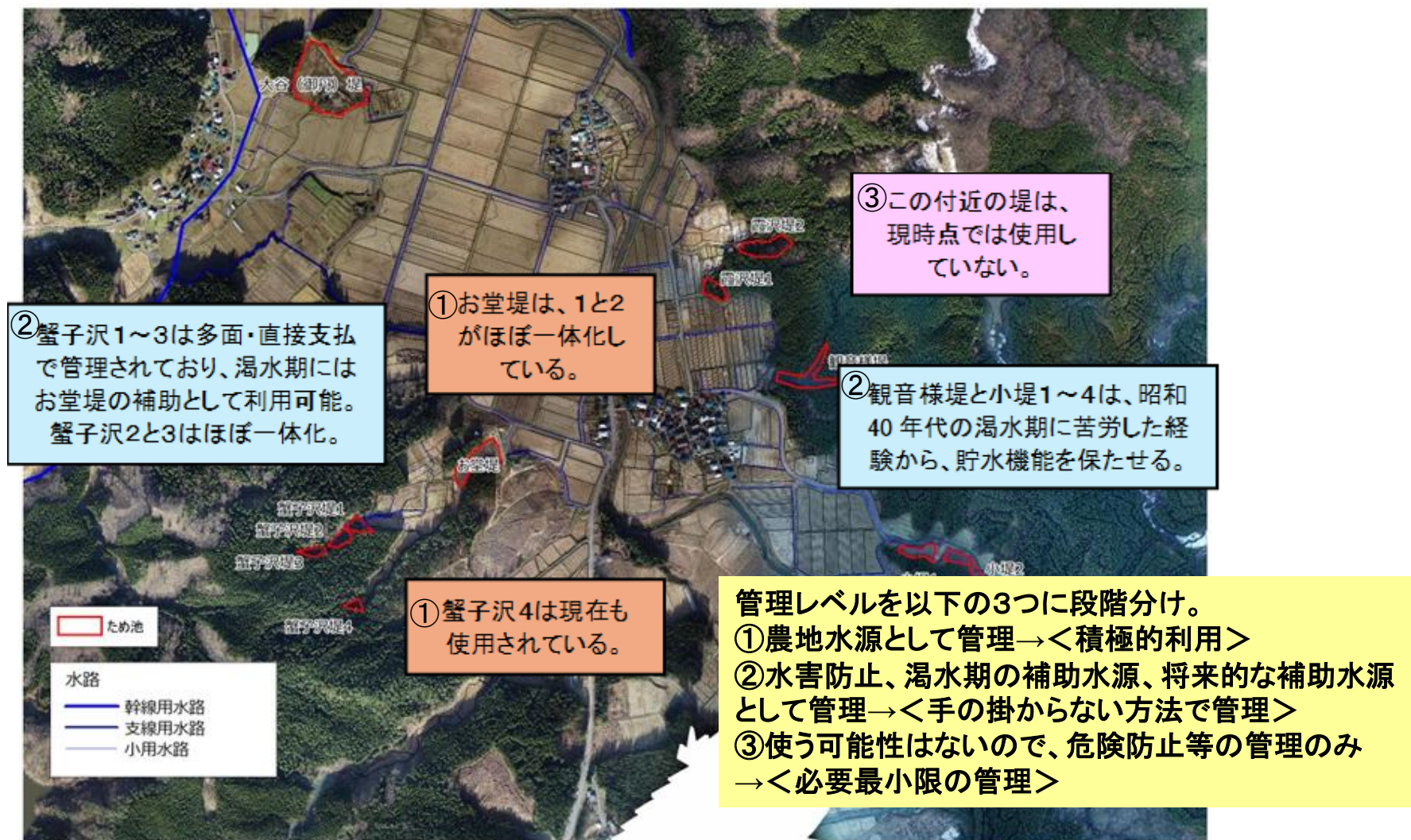
全349筆のうち**82.2%**が**後継者の想定なし**

今後、重点的に管理する農地の管理レベルを段階分け

小町集落・農地ゾーニング段階例



今後、重点的に管理する水利施設の管理レベルを段階分け

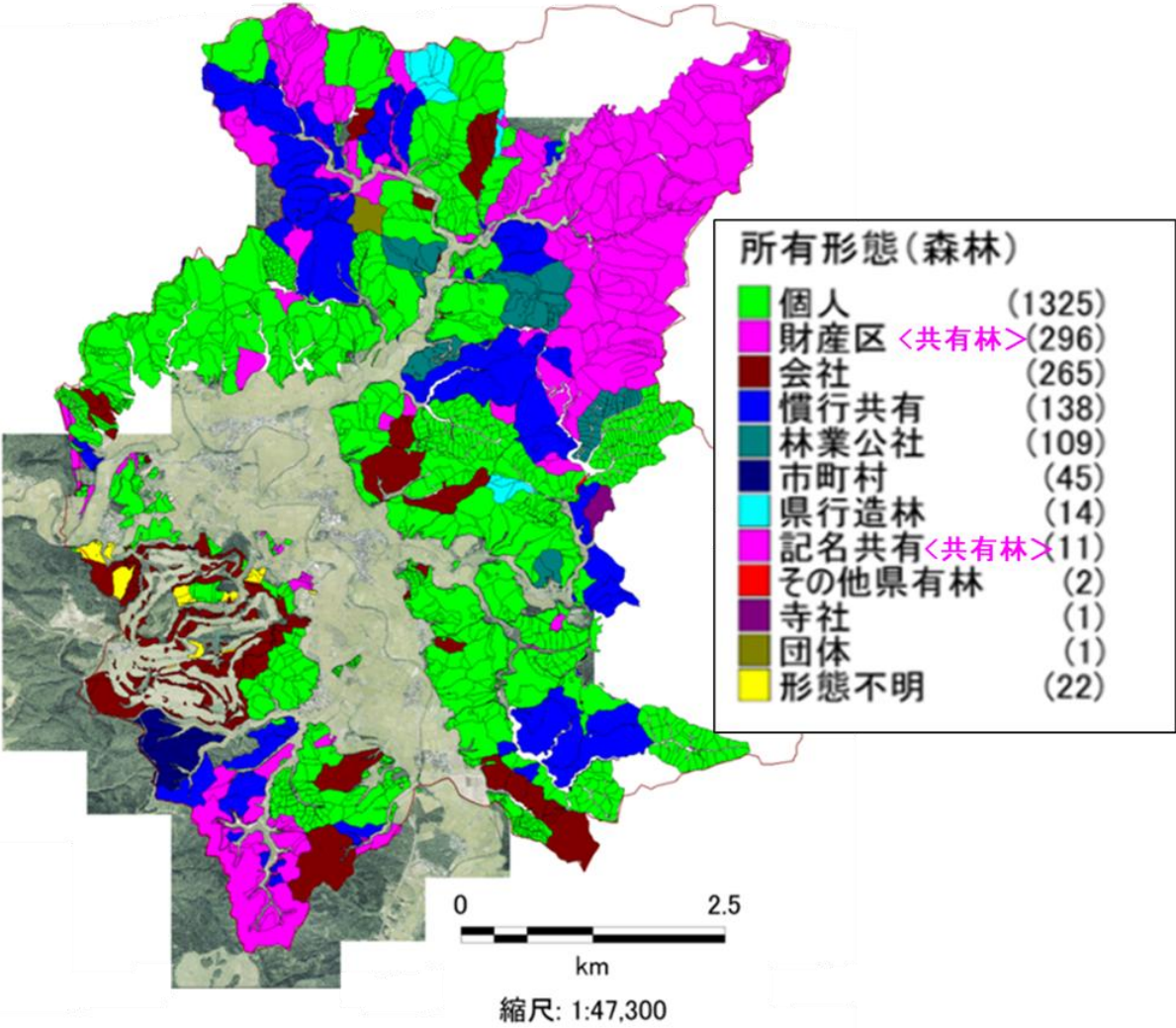


小町集落・水利施設(たため池)管理レベル段階例

ため池の水源涵養や水害防止にも重要な役割を果たす森林について、財産区や組山等の共有林を中心に適切な育成、管理を連動して展開。組山は関連する自治会の地縁認可団体化を促進。

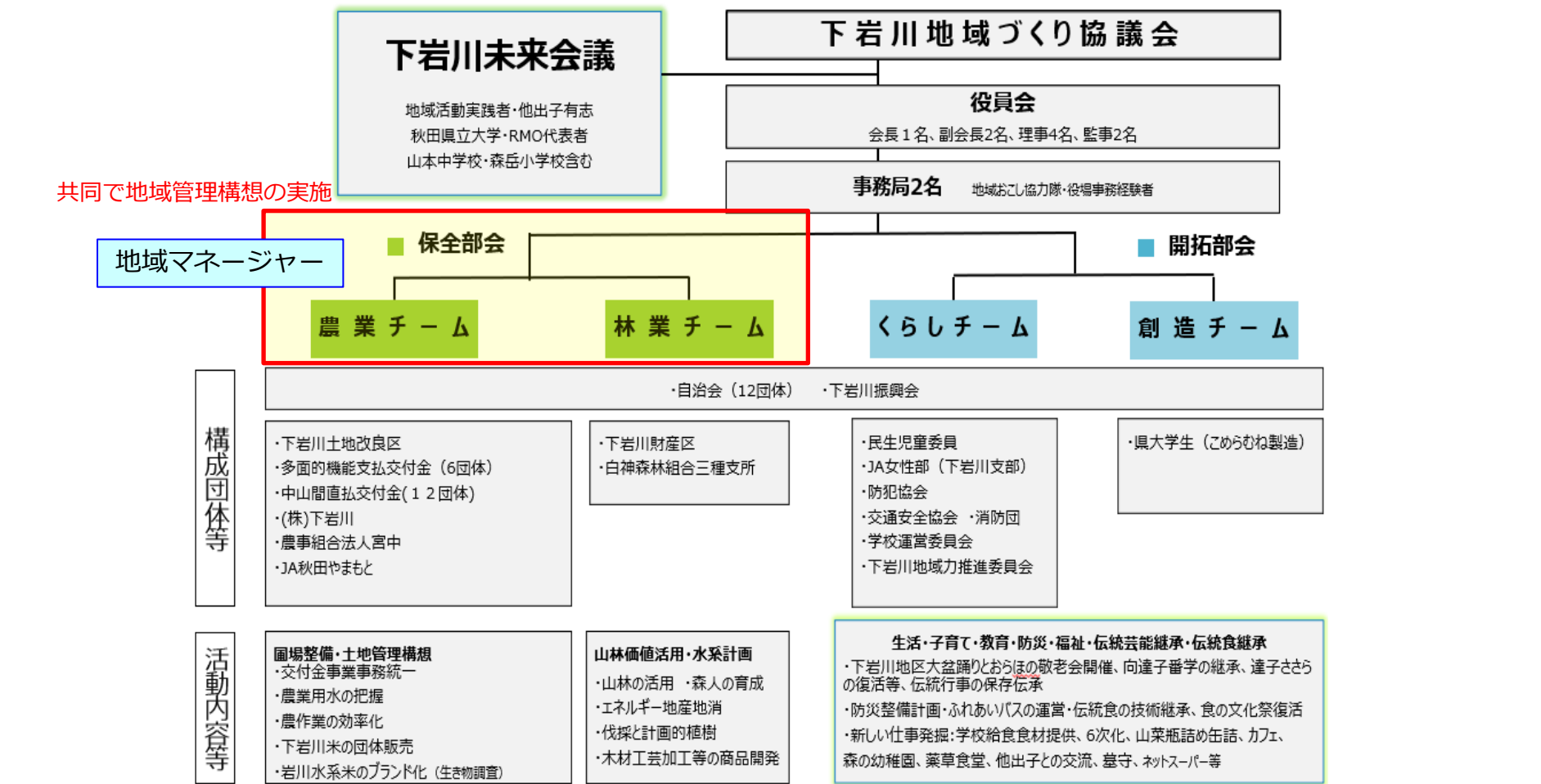
計860haの共有林
(財産区および記名共有)は財産区と記名共有の組山を一体化させた施業を実現していく。

農地や水利施設のゾーニングを考慮して、水源涵養や洪水防止を検討していく。



下岩川地区における共有林の分布状況

- 2024年2月に地域全体の横断的なマネジメント組織として「下岩川地域づくり協議会」を設立。
- 今後は、**同協議会内の農業チームと林業チームが共同で地域管理構想の実施**を担う。
- 進捗管理等の事務局機能を担う「地域マネージャー」を配置予定。



下岩川地区の農村RMO組織と地域管理構想の推進体制